

1 プログラム名 「上手な聴き方」

2 指導のねらい

人の話を「聴く」ということは、とても大切なスキルである。「聴く」ことで、話の内容を理解できるといっただけでなく、その人の気持ちを理解し、人間関係を深めていくことができる。本プログラムでは、どのような聴き方が、相手との人間関係を深め、心理的距離を縮めていけるのかを考え、そのような聴き方を身に付けられるようになることを目指す。

3 獲得目標とするスキル

○「相手の方に身体を向ける」「最後まで話を聴く」「相槌をうつ」等によって、心理的距離を縮める聴き方を身に付ける。

4 展開

場面	教師の発問 (○)・指示 (●)	生徒の反応・行動	留意点	時間
インスタレーション	●今日は「人の話の聴き方」を身に付けます。 ○人の話を聴くと、どんなことがわかりますか？ ○今までに「話を聴いてもらえなくて残念な思いをした」ということはありませんか？もしあったとしたら、どんな時でしたか？その時どんな気持ちになりましたか？	・その人の考えていることがわかる。 ・他の人との話に夢中になって「わかった、わかった」と面倒くさそうに言われた。何だか、嫌な気持ちになった。	・「話を聴く」ということが、自分にとっても相手にとっても、とても大切なことだということに気付かせるように話をしていく。	5
モデリング	●それでは、実際に「人の話の聴き方」の例をやってもらいましょう。 ・「悪い例」「良い例」の実施。 ・「良い例」のどのところが良かったか振り返る。(板書する)	・代表生徒は前に出て演じる。 ・他の生徒は、代表生徒の演技を見て、「良いところ」を確認する。	・「悪い例」と「良い例」の両方を演じさせる。 ・「悪い例」には深入りしない。	10
リハーサル	●それでは、実際にやってもらいましょう。近くの人と3人でグループを作ってください。グループができたなら、「話をする人」「話を聴く人」「観察者」を決めて下さい。 ●役割が決まったら、黒板を見て下さい。やってもらうのは「良い例」です。「良かったところ」は、「相手の方に身体を向ける」「相手の顔を見る」「相槌をうつって、最後まで聴く」でしたね。各グループで、その良かったところを実施できるように、練習して下さい。 ●終わったら、どこが良かったか振り返って下さい。もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。 ●それでは、もう一度やってみましょう。＜同じように3回繰り返し、全員がそれぞれの役割を経験する＞ ●それでは、いくつかのグループに工夫したことを発表してもらいましょう。 ●「人の話を聴く」と言っても、いつも「1対1」であるとは限りません。皆さんの場合は、授業時のように「1対多」の関係で「聴く」機会がたくさんあります。その時には、どんなことに注意したらいいのでしょうか。 ●そうですね。基本は、1対1の時と同じです。話している人は、聴いていない素振りをされると嫌な思いをします。話している人の方を向いて静かに聴き、時々背いてくれると、話しやすいのです。 ●それではちょっと、練習してみましょう。	・グループを作る。 ・グループごとに実演する。 ・「良いところ」に注意しながら、再演する。 ・工夫したことを発表する。 ・話している人の方をきちんと見る。 ・黙って聴く。 ・静かに話を聴く。	・3人で割り切れない場合は、4人グループを作って、観察者を2人にする。 ・きちんと振り返りを行い、よりよい聴き方ができるようにさせる。	25
フィードバック	●今日は、「人の話の聴き方」について練習しました。 ●自分が話しているのに、ちゃんと聴いてもらっていないと感じると、とても傷付きます。「上手な聴き方」を身に付けて、自分も相手も大切にしたいコミュニケーションをとれるようになってください。	●工夫のポイント 上手な聴き方には、相手に対する「配慮」が大切であることをおさえる。	・相手のよいところに着目させる。 ・数人に感想を発表させる。	10

5 その他

1対1の場合は、日常よくある場面なので、しっかり定着させることが必要である。

板書例

上手な聴き方 身体を向ける 話す人を見る 相槌をうつ
 最後まで聴く 質問をする 繰り返す

場面 1

1 場面

- ・自分の「好きなこと（趣味、食べ物など）」について一方が話をし、一方が話を聴く場面。

2 場面設定

- ・生徒A 自分の好きなこと（趣味、食べ物など）について、「どうしてそれが好きなのか」を相手が理解できるように話す。（2分）
- ・生徒B 相手が話しやすくなるように工夫して聴く。

3 リハーサルの流れ

- ・生徒Bは下記の2つのパターンで生徒Aに対応する。

《パターン1》

- ・今日はなんだか気分がのらず、Aの話を聞きたくないという気持ちをもっている。
- ・仲のよい友だちのAの話なので、一応は聞くものの、早く話が終わって欲しいという気持ちをもっている。
- ・Aの話を聞きたくないという気持ちを言葉にあらわすのではなく、態度や表情を使ってあらわすようにする。

《パターン2》

- ・Aの話を一生懸命に聴く。
- ・Aの話に共感し、さらに話をしたくなるように聴いていく。
- ・Aの話に対して、言葉や態度・表情の全てを使って関心を示しながら聴く。
- ・（相手の方に身体を向ける、話す人を見る、相槌をうつ、笑顔で聴くなど）

場面 2

1 場面

- ・教師の指示を、静かに聴く場面。1対多で話を聴く場面。

2 場面設定

- ・教師 生徒に話をする。
- ・生徒 教師の話を聴く。

3 リハーサルの流れ

- ・必要な指示をする。
- ・話す人が、気持ちよく話せるように配慮して聴く。
（相手の方に身体を向ける、話す人を見る、相槌をうつ、笑顔で聴くなど）

『 上手な聴き方とは・・・ 』

- (例) ○相手の方に体を向ける。
○
○
○
○

1対1の場面（自分の好きなこと）

私は旅をするのが好きです。その旅も、皆でガヤガヤ行く旅ではなく、一人で静かに行く旅が好きなのです。旅には、新しい出会いがあります。皆で行くと、その新しい出会いを見過ごしてしまうことがあるのです。それに対して、一人でぶらりと出掛けていく旅は、何か気になるものに出逢ったとき、好きなだけそれと付き合うことができます。その土地の人の人情にも触れることができます。

以前屋久島まで、旅したことがあったのですが、そこで、人情というものに触れる体験ができたのです。そこには、自分と同じように、一人で屋久島を目指す人がいました。初めて行く自分と違って、その人は何回か屋久島を訪れたというのです。それも今回と同じように、たった一人で。「どうして屋久島に行こうと思ったの？」と、その人は訊いてきました。

「自分を見つめ直したくて」と、私は答えました。それから、屋久島に着くまで、いろいろなことを教えてもらいました。その人とは屋久島で別れてしまったのですが、一人旅でなかったら、そんなにじっくりと話すことはなかったと思います。自分も一人、相手も一人。だからこそ、お互いに気兼ねせずに、じっくりと話せたのだと思います。

「どうも自分とは合わない」と感じた時には、その人からさっさと離れていける気軽さも、一人旅にはあります。ツアーのように、決められたルートをただたどるだけでなく、自分の行きたいように旅を進めていけるのは一人旅です。そうして、いろいろな出会いを体験できるのも、一人旅です。だから私は、一人旅が好きなのです。これからも、どんどん一人旅を続けていきたいと思います。

1対多の場面（教師の指示）

これから大切な連絡をします。静かに聴いてください。

本日の3時頃、〇〇警察から連絡が入りました。学校の近くの民家に強盗が入り、現在、逃走中だということです。被疑者は、青いトレーナーに紺のスラックスを身に付け、包丁を持って逃走しているということです。身長は160cm～170cm、頭髪は短く、パーマをかけているそうです。

これから下校する皆さんは、くれぐれも注意してください。

具体的には、

- ①決して一人では帰らず、複数で下校すること。
- ②人通りのある、明るい道を通ること。
- ③何かあった場合には、110番をするか、近所の家に逃げ込んで助けを求めること。

どうしても不安だという人は、学校で待機し、家の人に迎えに来てもらうようにしてください。